

受験番号

◎ 指示があるまで開かないこと。

平成 29 年 2 月 15 日 午前用

第 68 回 獣 医 師 国 家 試 験

実 地 試 験 問 題 (C)

注 意 事 項

1. 問題数は、60 問であり、解答時間は 2 時間である。
2. 解答方法は次のとおりである。

〔1〕 各問題には 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した答えを 1 つだけ選び、次の例にならって答案用紙にマークすること。なお、1 問につき 2 つ以上マークした場合には、そのうちの 1 つが正答であっても誤りとして取り扱われる。

(例) 問61 我が国で獣医師国家試験事務を受けもっている省はどれか。

1. 厚生労働省
2. 文部科学省
3. 農林水産省
4. 外務省
5. 国土交通省

正答は「3」であるから、答案用紙の

61 E 1 ☐ E 2 ☐ E 3 ☑ E 4 ☐ E 5 ☐のうち E 3 ☑を横線で、
61 E 1 ☐ E 2 ☐ ~~E 3 ☑~~ E 4 ☐ E 5 ☐とマークすれば良い。

〔2〕 答案用紙のマークには、必ず HB の鉛筆を使用し、次の良い例のとおり、塗りつぶさずに線を引くこと。

良い例…… 悪い例……

〔3〕 答えを修正する場合は、必ずプラスチック製の消しゴムで完全に消し、消し跡や消しクズが残らないようにすること。消し方が悪いと採点されないの
で注意すること。

〔4〕 答案用紙は、折り曲げたり、メモやチェックなどで汚したりしないよう特
に注意すること。

問1 [図1] はある病原体の感染環の模式図である。この模式図に当てはまる疾患はどれか。

- a 馬伝染性貧血
- b リフトバレー熱
- c ウエストナイルウイルス感染症
- d 東部馬脳炎
- e アフリカ馬疫

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C

図 1

問2 犬、雑種、雌、6歳齢。長期の免疫抑制療法中、長時間の排尿姿勢が認められるようになった。[図2] は尿沈渣塗抹標本（ギムザ染色）の強拡大像（×400）である。最も可能性の高い疾患はどれか。

- 1. 真菌と球菌による尿路感染症
- 2. 尿路系の移行上皮癌
- 3. 尿石症
- 4. 桿菌と球菌による尿路感染症
- 5. 無菌性出血性膀胱炎

別冊 C

図 2

問3 犬、ミニチュア・ダックスフンド、未去勢雄、8歳齢。1年前から排便しにくい状態が続いていたが、昨晚から急に排尿困難になったとの主訴で来院。〔図3 - A, B〕は腹部単純X線像（A：側方像、B：腹背像）、〔図3 - C〕は逆行性尿路造影像である。本症例に対して外科手術を行う際の術式として適切でないのはどれか。

1. 去勢
2. 膀胱・前立腺の腹腔内への還納と固定
3. ヘルニア孔の閉鎖
4. 小腸の腹腔内への還納
5. 会陰部尿道瘻術

別冊 C
図 3 - A, B, C

問4 鶏、ブロイラー、雌、若齢。呼吸症状を呈し、死亡。〔図4〕は気管支粘膜の病理組織像（HE染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 伝染性コリーザ
2. 伝染性喉頭気管炎
3. 伝染性気管支炎
4. ニューカッスル病
5. 粘膜型鶏痘

別冊 C
図 4

問5 〔図5〕の細菌による食品媒介性疾患はどれか。

1. 腸炎ビブリオ食中毒
2. コレラ
3. サルモネラ食中毒
4. エロモナス食中毒
5. ウェルシュ菌食中毒

別冊 C
図 5

問6 牛が〔図6〕に示す症状を呈した。最も疑われる疾患はどれか。

1. 第一胃錯角化症
2. 第四胃潰瘍
3. アミロイド症
4. 拡張型心筋症
5. ダウナー牛症候群

別冊 C
図 6

問7 〔図7〕の衛生動物のうち、雌のみが吸血するのはどれか。

1. a, b 2. a, e 3. b, c 4. c, d 5. d, e

別冊 C

図 7

問8 猫、雑種、去勢雄、12歳齢。約半年前から時々痙攣があり、最近ふらつきと傾眠傾向が認められるようになってきたとの主訴で来院。〔図8 - A, B〕は頭部MRI像（A：T2強調横断像、B：造影後T1強調横断像）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 水頭症
2. クモ膜嚢胞
3. 髄膜腫
4. 下垂体腫瘍
5. 脳梗塞

別冊 C

図 8 - A, B

問9 牛、ホルスタイン種、雌、6歳齢。分娩兆候を示し、怒責が続いているにもかかわらず外陰部からは何も出てこなかった。〔図9 - A〕は診察時の外貌、〔図9 - B〕は陰鏡検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 子宮ヘルニア
2. 子宮捻転
3. 胎子浸漬
4. 尿膜水腫
5. 長期在胎

別冊 C
図 9 - A, B

問10 犬、チワワ、雄、13歳齢。嘔吐と食欲不振を主訴に来院。〔図10 - A〕は来院時の血液検査結果、〔図10 - B〕は上腹部の超音波検査像、〔図10 - C〕は採取した腹水に含まれていたものの肉眼像である。現在の状況の説明として適切でないのはどれか。

1. 胆嚢破裂が疑われる。
2. 電解質異常の補正が必要である。
3. 膵炎の併発は否定できる。
4. 状態安定後の外科的介入が必要である。
5. 局所もしくは全身性の炎症状態にある。

別冊 C
図 10 - A, B, C

問11 運動減少、被毛粗剛、呼吸困難を示すマウスがみられた。剖検したところ、〔図 11 - A, B〕のような病変が認められた。最も疑われる疾患はどれか。

1. ネズミコリネ菌病
2. マウス白血病
3. マイコプラズマ肺炎
4. 気管支敗血症
5. ティザー病

別冊 C
図 11 - A, B

問12 犬、パグ、雄、6 か月齢。右眼に毛が生えているとの主訴で来院した〔図 12〕。この疾患に関する記述として適当なのはどれか。

1. 犬に特異的な疾患である。
2. 結膜の悪性腫瘍である。
3. 視覚喪失を伴うことが多い。
4. 病変が小さければコルチコステロイド点眼薬による治療で消失する。
5. 適切な外科的切除で根治可能である。

別冊 C
図 12

問13 猫、雑種、去勢雄、10歳齢。約1か月前からの元気食欲の低下および嘔吐を主訴に来院。血液検査ではBUN 80 mg/dℓ、Cre 4.2 mg/dℓであった。〔図13 - A〕は腹部X線腹背像、〔図13 - B〕は腎臓の超音波検査像（縦断面、左右腎とも同様の所見）である。確定診断に最も適切と考えられるのはどれか。

1. 尿沈渣の細菌培養検査
2. 排泄性尿路造影検査
3. CT検査
4. 腎臓の経皮的針生検
5. 開腹下の外科的腎生検

別冊 C
図 13 - A, B

問14 犬、レオンベルガー、雄、9歳齢。内視鏡検査で胃に潰瘍を認めたため、同部位を開腹下で全層生検した。〔図14〕は生検組織の病理組織像（HE染色）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 平滑筋肉腫
2. 消化管リンパ腫
3. 消化管間質腫瘍
4. 肥満細胞腫
5. 胃腺癌

別冊 C
図 14

問15 〔図 15〕の器具を使って測定できないのはどれか。

1. 硫化水素
2. 一酸化炭素
3. 浮遊粒子状物質
4. オゾン
5. テトラクロロエチレン

別冊 C

図 15

問16 馬、サラブレッド種、競走用馬、4歳齢。競走後に前肢に支柱跛行を認めた。
〔図 16〕は手根関節部X線外内側像である。骨折部位はどれか。

1. 橈骨
2. 橈側手根骨
3. 中間手根骨
4. 第3手根骨
5. 尾側手根骨

別冊 C

図 16

問17 〔図 17〕は犬の II 誘導心電図波形である。①～⑤のうち、右心房拡大に伴って振幅が増大するのはどれか。

1. ①
2. ②
3. ③
4. ④
5. ⑤

別冊 C
図 17

問18 犬の糞便を検査したところ、〔図 18〕のような虫卵が検出された。この寄生虫はどれか。

1. 胞状条虫 (*Taenia hydatigena*)
2. 単包条虫 (*Echinococcus granulosus*)
3. マンソン裂頭条虫 (*Spirometra erinaceieuropaei*)
4. 有鉤条虫 (*Taenia solium*)
5. 瓜実条虫 (*Dipylidium caninum*)

別冊 C
図 18

問19 〔図 19〕の植物が混入した粗飼料を給餌された牛が死亡した。含まれていた毒性物質はどれか。

1. アコニチン
2. オレアンドリン
3. アリルプロピルジスルフィド
4. アトロピン
5. ロリトレム

別冊 C
図 19

問20 犬、雑種、4 か月齢。落下後、左前肢を挙上しているとの主訴で来院。触診で左肘周辺を特に痛がったため X 線検査を実施した。〔図 20 - A, B〕は左前肢頭尾側像 (A) および側方像 (B) である。骨折部位として適切なのはどれか。

1. 上腕骨内側上顆
2. 上腕骨外側上顆
3. 尺骨肘頭部
4. 上腕骨近位成長板
5. 橈骨近位成長板

別冊 C
図 20 - A, B

問21 猫、雑種、雄、7歳齢。慢性の心不全を呈し死亡。〔図21〕は心臓のホルマリ
ン固定後の肉眼像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 疣贅性心内膜炎
2. 肥大型心筋症
3. 心内膜症
4. 拘束型心筋症
5. 肺性心

別冊 C
図 21

問22 牛の肉芽腫病変部から分離された菌をグラム染色したところ、〔図22〕の菌体
が観察された。最も疑われるのはどれか。

1. *Klebsiella pneumoniae*
2. *Bacillus anthracis*
3. *Erysipelothrix rhusiopathiae*
4. *Nocardia asteroides*
5. *Pseudomonas aeruginosa*

別冊 C
図 22

問23 猫、雑種、避妊雌、9歳齢。発咳、喘鳴、呼吸困難を主訴に来院。〔図23 - A, B〕は胸部X線像（A：側方像、B：腹背像）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 気胸
2. 肺水腫
3. 気管支炎
4. 膿胸
5. 縦隔気腫

別冊 C
図 23 - A, B

問24 〔図24〕のウイルスが起こす感染症はどれか。

1. 牛アストロウイルス感染症
2. 牛ロタウイルス感染症
3. 牛アデノウイルス感染症
4. 牛伝染性鼻気管炎
5. 牛トロウイルス感染症

別冊 C
図 24

問25 牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。分娩後1か月经過した頃に発情兆候が認められたが、その後、1か月以上発情を示さなかった。〔図25〕は卵巣の超音波検査像と検査直後にとさつして採取した卵巣の肉眼像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 卵巣静止
2. 卵胞嚢腫
3. 黄体嚢腫
4. 嚢腫様黄体
5. 黄体遺残

別冊 C
図 25

問26 犬、雑種、12歳齢。全身性のかゆみを伴わない脱毛を主訴に来院。〔図26 - A〕は本症例の外貌、〔図26 - B〕は摘出した精巣の肉眼像、〔図26 - C〕は患側の精巣の病理組織像（HE染色）、〔図26 - D〕は手術2か月後の外貌である。考えられる疾患と脱毛の原因の組合せとして最も適切なのはどれか。

- | 疾患 | 原因 |
|-------------------|------------|
| 1. 間細胞腫 | プロゲステロン過剰症 |
| 2. 精上皮腫 | アンドロジェン過剰症 |
| 3. セルトリ細胞腫 | エストロジェン過剰症 |
| 4. 精上皮腫および間細胞腫 | アンドロジェン過剰症 |
| 5. セルトリ細胞腫および間細胞腫 | エストロジェン過剰症 |

別冊 C
図 26 - A, B, C, D

問27 〔図 27〕は上空大気中におけるある物質の濃度変化を示している。この現象の原因として、2015 年現在国際的にまだ規定されていない物質はどれか。

1. クロロフルオロカーボン (CFC)
2. ハイドロクロロフルオロカーボン (HCFC)
3. ペルフルオロオクタンスルホン酸 (PFOS)
4. 四塩化炭素
5. 臭化メチル

別冊 C
図 27

問28 〔図 28〕は畜舎の出入口の様子である。「ア」に入れる消毒液として適切でないのはどれか。

1. 塩化ベンザルコニウム
2. 次亜塩素酸ナトリウム
3. 消石灰液
4. イソプロピルアルコール
5. アルキルジグリシン塩酸塩

別冊 C
図 28

問29 犬、マルチーズ、去勢雄、5歳齢。排尿困難を主訴に来院。〔図29〕は腹部単純X線側方像である。排尿困難の原因として最も疑われる疾患・病態はどれか。

1. 便秘
2. 尿道結石
3. 膀胱結石
4. 前立腺腫大
5. 会陰ヘルニアによる尿路閉塞

別冊 C

図 29

問30 犬、雑種、雌、12歳齢。1週間前から元気、食欲が低下し、尾を振らなくなったとの主訴で来院。〔図30-A〕は腰仙部の単純X線側方像、〔図30-B〕は同部位の単純CT像（再構成後の矢状断像）である。最も疑われるのはどれか。

1. 脊椎脱臼
2. 仙椎の腰椎化
3. 半側脊椎
4. 椎間板脊椎炎
5. 椎間板ヘルニア

別冊 C

図 30 - A, B

問31 牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。食欲不振にて診察。体温 39.5℃、心拍数 140 回/min。頸静脈の怒張と拍動がみられ、聴診では収縮期雑音が聴取された。〔図 31〕は右側第 4 - 5 肋間からの超音波検査像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 創傷性心膜炎
2. 心室中隔欠損
3. 疣贅性心内膜炎
4. 後大静脈血栓症
5. 心膜中皮腫

別冊 C

図 31

問32 犬、ゴールデン・レトリバー、雄、12歳齢。心タンポナーデおよび血胸を呈し、死亡した。〔図 32〕は病理解剖時に心膜（心嚢）を除き左右心室を切開した心臓と肺の肉眼像である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 心臓原発血管肉腫
2. 大動脈小体腫瘍
3. 心膜中皮腫
4. 粘液腫
5. 胸腺腫

別冊 C

図 32

問33 犬、ミニチュア・ダックスフンド、雄、9歳齢。重度の呼吸困難とチアノーゼを主訴に来院。〔図 33 - A〕は吸気時、〔図 33 - B〕は呼気時の喉頭部の内視鏡像である。本疾患の病態に関する説明として適切なのはどれか。

1. 吸気時に披裂軟骨が内側に変位している。
2. 呼気時に喉頭の虚脱がみられる。
3. 両側の披裂軟骨に腫瘍性病変が認められる。
4. 呼気時に軟口蓋の喉頭内への吸い込みが認められる。
5. 吸気時に喉頭蓋の背側変位が認められる。

別冊 C
図 33 - A, B

問34 犬、ゴールデン・レトリバー、雄、10歳齢。腹部膨満と元気食欲の低下を主訴に来院。〔図 34 - A〕は来院時の血液検査結果、〔図 34 - B〕は血液凝固系検査結果、〔図 34 - C〕は脾臓の超音波検査像である。確定診断のための検査法として最も適切なのはどれか。

1. 腹水の細胞診
2. 脾臓の細針吸引（FNA）細胞診
3. 脾臓のコア針生検
4. 脾臓のくさび状生検
5. 脾臓摘出後の病理組織検査

別冊 C
図 34 - A, B, C

問35 犬、ミニチュア・ダックスフンド、雄、8歳齢。2か月前から頸部腹側に〔図35 - A, B〕に示す軟らかい腫脹が認められるとの主訴で来院。腫脹部の超音波検査では液体の貯留が認められ、吸引した内容物は粘稠度が高くやや混濁した透明な液体であった。何度か針を穿刺して内容物を吸引除去したが、再発を繰り返した。本症例に対する根治療法として最も適切なのはどれか。

1. 囊腫構造の全切除
2. 抗生物質の投与
3. 罹患側の下顎腺および舌下腺の摘出
4. コルチコステロイドの投与
5. 腫脹部位へのドレインの設置

別冊 C
図 35 - A, B

問36 〔図 36〕で示される経路で人に感染する感染症はどれか。

1. 腺ペスト
2. ライム病
3. 腎症候性出血熱
4. アルゼンチン出血熱
5. ロッキー山紅斑熱

別冊 C
図 36

問37 泌乳牛、ホルスタイン種、雌、5歳齢。数日前から〔図37〕の様相を呈した。
この疾患に対する処置として適当なのはどれか。

1. 左臍部切開による整復
2. 牽引による排出
3. 母体回転による整復
4. 還納後、外陰部の縫合
5. 薬剤による排出促進

別冊 C
図 37

問38 〔図38〕はトノサマガエルから摘出した腹直筋を用いてマグヌス法により筋の収縮を記録したものである。筋をアセチルコリン液に浸したところ、「ア」の収縮が発生した。筋をよく洗浄した後に薬物 A で前処置し、速やかにアセチルコリン液に浸して発生した筋収縮が「イ」である。薬物 A はどれか。

1. フィゾスチグミン
2. ベタネコール
3. d-ツボクラリン
4. ドブタミン
5. ネオスチグミン

別冊 C
図 38

問39 〔図 39〕は猫カリシウイルスの力価を測定したものである。各ウイルス希釈液 ($10^0 \sim 10^7$ 倍希釈) を4つのウェルに $100 \mu\text{l}$ ずつ入れてある。また、各ウェルにはウイルスの感受性細胞が培養されており、●印のウェルにはウイルスによる細胞変性効果が観察された。このウイルスの力価として最も適切なのはどれか。

1. $10^{1.8} \text{TCID}_{50}/\text{ml}$
2. $10^{2.8} \text{TCID}_{50}/\text{ml}$
3. $10^{3.8} \text{TCID}_{50}/\text{ml}$
4. $10^{4.8} \text{TCID}_{50}/\text{ml}$
5. $10^{5.8} \text{TCID}_{50}/\text{ml}$

別冊 C
図 39

問40 牛、黒毛和種、雌、7歳齢。持続性の外陰部腫大を呈している。〔図 40〕は経時的な血中ホルモン濃度変化を示している。最も疑われる疾患はどれか。

1. 黄体囊腫
2. 卵胞囊腫
3. 囊腫様黄体
4. 卵巢静止
5. 鈍性発情

別冊 C
図 40

問41 〔図 41 - A〕は急死した鶏の腹部内臓の肉眼像、〔図 41 - B〕はその病理組織像（HE 染色）である。最も疑われる疾患の原因ウイルスが属する科はどれか。

1. オルトミクソウイルス科
2. パラミクソウイルス科
3. サーコウイルス科
4. ピコルナウイルス科
5. アデノウイルス科

別冊 C
図 41 - A, B

問42 猫、雑種、避妊雌、10 歳齢。右耳に重度な外耳道炎があり、内科的治療を続けていたところ、右眼に〔図 42〕に示す異常が認められた。障害されている神経として適切なのはどれか。

1. 顔面神経
2. 交感神経
3. 内耳神経
4. 三叉神経
5. 外転神経

別冊 C
図 42

問43 〔図 43 - A, B〕の器具に関する記述として適当なのはどれか。

1. A は牛乳用マイクロピペットと共に用いる。
2. B は指示薬と共に用いる。
3. 試料を蒸留水で段階希釈して A で測定する。
4. B に試料を入れて 65℃ に加温する。
5. A と B を用いて無脂乳固形分を測定する。

別冊 C
図 43 - A, B

問44 羊、サフォーク種、雌、3 歳齢。5 月中旬の放牧前の検診で、元気がなく、貧血および下顎部の浮腫が認められた。浮遊法により糞便を検査したところ、〔図 44〕に示す虫卵が多数みられた。この羊への寄生が疑われる寄生虫として最も適当なのはどれか。

1. 乳頭糞線虫 (*Strongyloides papillosus*)
2. 拡張条虫 (*Moniezia expansa*)
3. 捻転胃虫 (*Haemonchus contortus*)
4. 肝蛭 (*Fasciola hepatica*)
5. 羊鞭虫 (*Trichuris ovis*)

別冊 C
図 44

問45 馬、サラブレッド種、競走用馬、4歳齢。運動後に左中手骨掌側部に熱感と腫脹を認めた。〔図45〕は患部の超音波検査像である。この疾患に関する記述として適当でないのはどれか。

1. 浅指屈筋腱の炎症である。
2. 患部の低エコー領域の程度と面積は重症度を反映する。
3. 急性期（初期）には馬房内休養させる。
4. 治療にはリハビリテーションが重要である。
5. 再発率は低い。

別冊 C

図 45

問46 〔図46 - A〕のマウス a は健康であるが、マウス b（マウス a と同週齢）は削瘦顕著であり、チアノーゼを呈している。〔図46 - B〕はマウス b の肺の病理組織像（HE 染色）、〔図46 - C〕は肺のスタンプ像（ギムザ染色）である。〔図46 - C〕の矢印で示す病原体はどれか。

1. *Cryptosporidium parvum*
2. *Mycoplasma pulmonis*
3. *Pneumocystis carinii* または *Pneumocystis jirovecii*
4. *Mycobacterium tuberculosis*
5. *Candida albicans*

別冊 C

図 46 - A, B, C

問47 〔図 47〕は新生獣出生後の相対的抗体量の変化を示している。A の期間は感染リスクが高く、ワクチン対策として重要な時期と考えられる。牛・馬でこの時期に相当する期間として適切なのはどれか。

1. 1 週間
2. 3 週間
3. 2 か月
4. 3 か月
5. 6 か月

別冊 C
図 47

問48 〔図 48〕は犬の尿沈渣の顕微鏡像（× 400）である。この結晶成分はどれか。

1. シスチン
2. シュウ酸カルシウム
3. リン酸アンモニウムマグネシウム（ストルバイト）
4. ビリルビン
5. 尿酸アンモニウム

別冊 C
図 48

問49 犬、ポメラニアン、雄、4か月齢。ワクチン接種時に心雑音が聴取されたとのことで紹介来院した。〔図49〕は左心室内に造影剤を投与して行った心血管造影透視（側方像）である。画像診断として適当なのはどれか。

1. 心房中隔欠損
2. 心室中隔欠損
3. 右大動脈遺残症
4. ファロー四徴症
5. 動脈管開存症

別冊 C

図 49

問50 牛、ホルスタイン種、雌、4歳齢。冬季に細断した低品質粗飼料と濃厚飼料を混合給与されている。食欲が低下し、腹部が拡張してきたことを主訴に診察。〔図50〕は当該牛の尾側望である。右側下腹部の膨大部は触診で硬固であった。最も疑われる疾患はどれか。

1. 第一胃鼓脹症
2. 第一胃アシドーシス
3. 第四胃右方変位
4. 第四胃食滞・便秘
5. 胎膜水腫

別冊 C

図 50

問51 猫、雑種、去勢雄、11歳齢。流涎と口からの出血を主訴に来院。〔図51 - A〕は頭部単純CT像、〔図51 - B〕は口腔腫瘍の細針吸引（FNA）細胞診像（ギムザ染色、×400）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 扁平上皮癌
2. リンパ腫
3. 悪性黒色腫
4. 肥満細胞腫
5. 線維肉腫

別冊 C
図 51 - A, B

問52 ある遺伝子座のイントロン領域に2つのloxP配列（ \blacktriangleright ）を挿入した。〔図52〕の□はエクソン、□内の数字はエクソン番号を示す。Creが発現したときに生ずるパターンはどれか。

1. a
2. b
3. c
4. d
5. e

別冊 C
図 52

問53 〔図 53〕は栄養状態を視診および触診で判断するための評価法を示している。
このうち、a の場合のスコアの上限值はどれか。

1. 2
2. 2.5
3. 3
4. 3.5
5. 4

別冊 C 図 53

問54 〔図 54 - A〕はフレンチ・ブルドッグの上唇、鼻鏡にみられた病変、〔図 54 - B〕はドメスティック・ショートヘアーの耳介にみられた病変で、いずれも同一の真菌が原因である。この疾患はどれか。

1. クリプトコックス症
2. 皮膚糸状菌症
3. カンジダ症
4. マラセチア症
5. アスペルギルス症

別冊 C 図 54 - A, B

問55 豚、交雑種、雌、11 か月齢。離乳後発情が認められなかった。〔図 55 - A, B〕はとさつ後に摘出した子宮および子宮内容物である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 胎子浸漬
2. 気腫胎
3. 胎子ミイラ変性
4. 胎子浮腫
5. 水頭症

別冊 C
図 55 - A, B

問56 猫、雑種、雌、4 か月齢。離乳後から食べた物を吐くようになり、食欲はあるが痩せてきたとの主訴で来院。〔図 56 - A, B〕は造影剤経口投与直後の胸部 X 線像（A：側方像、B：腹背像）である。最も疑われる疾患はどれか。

1. 動脈管開存症
2. 食道内異物
3. 巨大食道症
4. 血管輪異常
5. 裂孔ヘルニア

別冊 C
図 56 - A, B

問57 〔図 57 - A〕は羊の縦隔リンパ節の剖面、〔図 57 - B〕は肺に多発した小結節の病理組織像（HE 染色）である。本疾患の原因として最も疑われる病原体はどれか。

1. *Actinobacillus lignieresii*
2. *Corynebacterium pseudotuberculosis*
3. *Fusobacterium necrophorum*
4. *Mycobacterium bovis*
5. *Mycobacterium avium* subsp. *paratuberculosis*

別冊 C
図 57 - A, B

問58 猫、雑種、12歳齢、雌。流涎、口臭、口腔からの出血を主訴に来院。〔図 58 - A, B〕は口腔内の肉眼写真である。最も疑われる疾患に関する記述として適当でないのはどれか。

1. 舌中央～先端部に重度の潰瘍性病変を伴うことが多い。
2. 一般に疼痛が激しく食欲不振を伴う。
3. 病変部の病理組織学的検査ではリンパ球や形質細胞を主体とした慢性炎症像を呈することが多い。
4. コルチコステロイドや抗生物質投与に反応しても再発することが多い。
5. 重度の場合には全臼歯抜歯や全顎抜歯が行われることがある。

別冊 C
図 58 - A, B

問59 〔図 59 - A, B, C, D〕の魚を喫食したことにより起こる食中毒の記述として
適当なのはどれか。

1. 死亡率が高い。
2. 有毒成分は単一である。
3. ビブリオ属菌が有毒成分を生産する。
4. ツムギハゼも同じ有毒成分をもつ。
5. 冷温感覚異常がある。

別冊 C
図 59 - A, B, C, D

問60 牛の流産胎子とその胎盤からポテトデキストロース寒天培地で〔図 60〕の像
が得られた。これはどれか。

1. *Aspergillus fumigatus*
2. *Mucor racemosus*
3. *Candida albicans*
4. *Trichophyton verrucosum*
5. *Microsporum gypseum*

別冊 C
図 60

